

吟道月報

No.9
48・4・5

碩心会

碩心会の歩み(四十一年)

昭和四十一年四月には、平本小山さんの骨折りでも大船支部開設の運びとなった。春には松浦、山本、佐藤、村川、岩崎、林さん入会、秋には若林、山口、大川、渡辺さんを加え、加藤秀岳先生の指導で発展の基礎作りが出来上った。

又、十二月には、根岸清風先生、石木さんの骨折りでも一色支部が発足、鈴木しん、守谷うめ、鈴木富美子、守谷しほ、鈴木さよ、鈴木徳枝、坂本立松、行谷さん入会、根岸清風先生が指導に当たった。

五月八日新築の小坪清阿田諾所二階で、才六回選手吟道連盟の大会を行った。碩心三十名、吟友十九名に横須賀の横南支部七名の応援と草野宅主、新田先生を

招いて登会であった。

五月二十二日の才十六回県大会(西区公会堂)には小峰順山、竹石寛泉、千葉信泉、清田和泉出吟、十月九日の川崎競苑ホールでの才十七回県大会には、根岸清風、千葉信泉、鈴木政泉、前司寛泉が出吟した。

十一月三日の遠子市才十六回文化祭には、図書館ホールで、各種芸能団体と合同発表会を開催、出入総数五〇〇人、入場者は常時三〇〇人近くあったが、運営、進行に不備の点多く、今後の合同発表会のみつかしさを痛感した。碩心は独吟黒田実八、詩舞静ヶ御前を生駒三佐子舞い吟は三井徹風、詩舞日本を改すを石垣千葉と小林先生が舞い、吟を千葉信泉、根岸清風、加藤秀風、才八三井徹風で万雷の拍手を得た、ことを憶えている。

この年の県本部の加入団体三十六、会員数一六四五人、碩心会の会員数五十二名であった。

(計社)二月号所載の堀内支部開設三十九年四月は、その後の調査で三十八年四月であることが、はっきりしました。訂正しておきます。

その後の調査で三十八年四月であることがはつきり
しました、訂正しておきます

碩心会 本部関係

◎ 昭和四十八年春季早稲審査は三月十八日一七三
名、四月一日十一名、計百八十四の早稲認許を得て無
事終了した。特に十八日は午前十時から午後五時まで
を要した長時間一七三名の審査を諸先生方の御苦勞の
ほど感謝に堪えないところである。

四月一日附で各段位の許証が申請されるが、左記許
証料四月十日までに各支部毎に取まとめ総務までお届
け下さい。尚、同日までに希望番号をも

准用範(二、〇〇〇円) 興佐(五、〇〇〇円) 五、六段
(三、〇〇〇円) 中佐(三、〇〇〇円) 三、四段(一、
〇〇〇円) 初佐(一、五〇〇円) 初、二段(八〇〇
円)

◎ 諏訪吟行会の件

六十人乗バス(固有席四十九人)二台と諏訪観光木
テル宿泊百人の契約を取り付けました。

五月中旬頃、役務分担その他の打合せをしたいと思
いますので、参加者の氏名未提出の支部は、四月中
に会長までお願いいたします

尚支部の世話人をも同時に御推せん下さい

会員の異動

新会員

銀詠支部	清田光恵	亶子6の4の5	電(71)二四五三
建設支部	神保史一	桜山2の3の4	電(71)五二六九
亶子支部	坂井田政一	亶子5の2の5	電(71)二、八〇九
下口支部	細谷昌司	秋谷二六六	電(56)八三三七
ク	細谷マサ	秋谷二六六	電(56)八七一一
カ	若命タマ	秋谷六九〇	電(56)八八一八

新会員 つづき

下口支部	若命ギク	秋谷六五四	重(56)八七二七
"	武石富雄	芦名	重(56)六六六六
"	細谷 充	大柳二五三	重(56)八七〇一

退会々員

堀内支部	102	八須 元枝(転居)
"	150	津田 秀雄()
"	183	小峰 辰雄
"	192	相田 修平
沼田支部	59	佐藤 源吉
"	83	浅野運二郎
蓮子支部	108	早瀬 久江

戸塚支部の開設

◎ 四月四日(水)会長及び根岸先生と大般支部会員二十名の参加を得て盛大に発会式を行いました。

練習日：毎週土曜日

敬 場 鈴木萃山氏宅

指導者 会長月一〜二回、准師範鈴木萃山

支部長 鈴木萃山

理事会計 大貫光泉

指導者講習

松井先生指導による吟道講習を毎月オニ土曜日、堀内会館を使用して、堀内支部A班の錬成と同時に行うこととなりました。准師範以上の他支部の方の参集をお願いします。

オ六十四回岳風会全国大会

四月二十九日(日)九段会館で開催されます。頑心会

より、竹石裏風独吟で出吟されます。

才二回全国青少年吟道大会

六月三日（日）九段会館ホールで開催。頑心会より

内山俊泉出吟・吟題・古寺訪梅

一色支部だより

- ◎ 四月一日より、支部長坂本桂山さんとなりました。
- ◎ 才二組の練習日は、毎木旺一色会館二階で行っております。